SOE News no.86
ホームページもご覧ください
NPO-SOE.JP
NPO センスオブアース市民による自然共生パンゲア からのお知らせ
2013.4

ヒロシマからフクシマへ

肥田舜太郎講演会　詰めかけた参加者で満席

‘13・3/16 会場を埋めた参加者

‘13・4/9 朝日新聞２面ひと欄の肥田舜太郎氏

2013年(平成25年)4月9日　火曜日　14版　2

ひと

日韓で「非核・脱原発」を訴える96歳の被爆医師

肥田　舜太郎(ひだ しゅんたろう)さん(96)

「核のエネルギーと人間は共存できない。核兵器をなくし、原発をひとつでもなくすことが、子や孫のために何よりも大事だ」

福島の原発事故から2年。全国各地に招かれ、内科医として被爆者医療に生涯携わってきた体験をもとに160カ所以上で講演。評判は海を越えて伝わり、脱原発を目指す医師の会の招きで3月、初めて韓国を訪れた。数千人の被爆者が暮らす韓国は「ずっと気になっていた」。車いすで駆けつけ、市民集会や国会で信念を語った。

1945年8月6日は広島陸軍病院の軍医だった。直後から被爆者の治療を続けた。数日後、遠くから家族を捜しに来た人の中にも高熱や出血に苦しみ、紫斑が出て急死する人が相

講演会の様子は、参加者のメッセージよりお伝えします。

「先生はまず、広島でのご自身の被爆体験をお話しされ、また直接原子爆弾によって熱線を伴った放射線を浴びた大勢の方たちの焼けただれたお姿について克明に説明されました。そして次々になくなっていく人たちを前に医師として何もできない先生のもどかしさも十分伝わってきました。ご自身で経験されたお話の内容は大変迫力があり、また説得力があるものでした。私どもも自分のことのように恐ろしさを実感いたしました。

先生はその後ずっと広島にとどまって延べ 6,000 人以上の被ばく患者の治療に当たられたそうで、程度の差こそあれ、放射能のもたらす人への影響について大変深刻に受け止められたご様子がお話からうかがえました。

後半は福島原発の事故による放射能漏れのお話をされ、放射能とはどういうものか、これを浴びたり、また放射能により汚染された空気や食べものを摂取した場合における深刻な影響―外部被ばくや内部被ばくについて―お話をうかがうことができました。人の体は、年齢によっても、同年代であってもその現れかたは人によって全部違う。医者はそれらの人の体すべてを把握することは不可能だし、一人の体さえ、一生かかってもケアすることはできない。だから、自分の体は基本的に自分が守

ると言う強い信念を持たなければならないと言うお話は大変印象的でした。一方で、先生は放射能汚染をもたらした原因である核爆弾や原子力発電所の存在について強い懸念を抱かれ、これらをなくすための啓発や活動についてもお話され、私たちは大変重要なこととして受け止めました。」（板橋区若木在住　竹内一雄さんのメッセージより部分引用）

《参加者のアンケート紹介》

内部被ばくの危険性について知っているつもりでしたが、ヒロシマ・ナガサキであった「ぶらぶら病の話」は初めて知り、科学では解決できないと言うことを知って、その原因である原子力発電はなくさなければいけないと感じました。

こんなふうに素晴らしい講演はめったにないことでした。分かりやすく話しの中心にあいまいさがなく、感激しました。ずっと立ったままで話され、座って聞いていることが恥ずかしい位でした。日本人の多くがもっと意志を表すことをしないと。

今の自分ができること、しなくてはならないのは自分の体・遺伝子を未来を守るためにどう放射線から身を守るか。

「自分の命は自分で守る」「今の大人の責任を果たすべき」の言葉がずしりと響きました。世界で一人、（広島投下）の当日から看てきた医者としてのほこりもすばらしい！話されることが一つずつ納得できた。

生きるのは自分自身、医者や薬で生きているのではないこと。今生きている命を大切にすること。汚した自然をきれいに戻すことが私たちの責任であること。情報がコントロールされている。今日時間をつくってきて、非常に勉強になった。

人間は自然そのものと再認識した。生き方を今後いかにするか、実行するか。次の世代に少しでもきれいな地球を残したい。

放射性物質の出す放射線が細胞の防除作用を壊し、細胞がエネルギーをつくりだす作用をメチャメチャにしてしまうので、今のところ（治療）どうしようもないと言うことにショックを受けた。とともに正確なことが知れてすっきりした。

医者は体を治せない、自分の体を守るのは自分という言葉が印象的でした。

花束を受け取られた肥田舜太郎先生
どうぞ、お元気にこれからもご活躍を！

ダンボールで簡単-たい肥づくり

「家庭から出るゴミの３割は生ごみ。」
「用具も簡単。軽量で持ち運びができるところが気に入りました。」
「たい肥がとってもきれいでびっくり。」

3月23日(土)
エコポリスセンター地下1階ホール

肥田舜太郎講演会に続き、１週間後、センスオブアースは、板橋区環境課環境協働推進係と協働で、堆肥づくりの実践講習会を開きました。会場は、エコポリスセンター地下1階ホール。講師は、センスオブアース理事、若手新進気鋭の高橋雅俊さんです。

はじめに、たい肥づくりのパワーポイントによるプレゼンテーション。やさしくわかりやすく、微生物の働きの説明が行われ、その後、ダンボールの扱い方と、生ごみを入れる土づくりの実演がありました。じっと、見ていた参加者はグループで同じように作業を体験。あっという間にコンポスト完成！　参加者の声は、**「ゴーヤ・ピーマン・ミニトマト・オクラ・ブルーベリー・アシタバをつくりたいです。」「みどりのカーテンとお料理にちょこっと便利なバジルなどハーブなど。」「区民農園で使用します。」「野菜を育てます。」「まず、生野菜のゴミを発酵させてみたい。」「庭の花々に使いたい。」「是非、試したい!野菜づくり。」**など、ぜひ皆さんもお試しを。

講師の高橋雅俊

【つくり方　ミニ知識】

みかん箱ぐらい～のダンボールの中底・外底・外回りなどガムテープで補強 ➔ 内側に新聞紙を１枚はりつける。➔　中でピートモス（も類など乾燥させたもの、市販）１２ℓ ・くん炭８ℓ を混ぜる ➔　新鮮な野菜ゴミを５００ｇ～１０００ｇ程混ぜる➔２～３日で分解 ➔　繰り返し生ゴミを入れ混ぜる。あれば、米ぬかを混ぜる。３カ月ほどで、たい肥完成。腐葉土と同様に扱う。

生ゴミでも入れない方が良いもの（分解が遅いもの、臭いやすいもの）ー肉魚のおおきな骨・貝殻・ペットのフン・梅干しの種・トウモロコシの芯・タマネギのうす皮・防腐剤付き果物皮

【注意点４つ】

1生ごみの水をよくきる。**2**生ごみを細かく切る。**3**土（コンポスト）に入れよく、かき回す。**4**ダンボールのふたをする。（ベランダなどでは雨に濡らさないためにビニールカバーを空気が入るようゆるめにかける）好気生微生物の働きで野菜など分解するため、時間があるときにかき回すと、分解を早め、におわない。ぬか漬けに似る。

SOE 出前授業

木の顔ってどんな顔？

くるみ保育園の子どもたち
於赤塚公園
3月26日

「ねえねえ、いっしょにあそぼうよー」
「おれはきみにおこっているんだ！」

「ホホホ、
オニゴッコして
なかなおりしたら？」

「この木は、すべすべしていてよかったから、
選びました。」

「この木は大きいから選びました。」

～ 木と話し合っているような子どもたちの様子です。～

くるみ保育園の4･5歳の園児たちは、仲よく、オニゴッコを楽しんだ後、木の顔づくり。それぞれの顔が何か話しかけてきます。大きな木を鳥瞰的にみられる子どもたちもいて、そこに造形したのにびっくり。大胆なとらえ方が続々出てきました。こんな感じ方ができる子どもたち。5歳児クラスはもう6歳です。後1週間で1年生。身近な木を楽しんで、木は友達って思ってくれたくるみ保育園児でした。

発行　特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
東京事務所　東京都板橋区前野町４－８－６（〒174-0063）phone: 03-3960-6052　fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp　url: npo-soe.jp